

《議題2》 高齢者等実態調査の調査結果について

	意見・質問	回答
1	<p>(久保部会員)</p> <p>高齢者あんしん相談センターの認知度が、ミドル世代では約半数程度。自分の両親の介護が必要にな時に、また将来的には自分自身が高齢者あんしん相談センターの存在を知っているか否かでサービス介入のスピードが変わってくると思われる。ミドルシニア世代の認知度を上昇させることは、文京区が目指している認知症患者に早い段階から介入していくという方針に有効ではないか。</p>	<p>高齢者あんしん相談センターの認知度の向上は、区としても重要な課題と考えおります。ミドル世代への認知度向上の必要性は、委員ご指摘のとおりであり、今後は、ミドル世代向けイベント等での周知など様々な機会をとらえて積極的に認知度の向上に取り組んでまいります。</p>
2	<p>(星野部会員)</p> <p>あんしん相談センターのミドルシニアの認知を挙げるのがよいのでは。免許証を持っている人の何%が返納、更新をしなかったのを出した方がよいのでは。</p> <p>認知症サポート医の認知をあげることをよろしくお願いします。あんしんセンターでもOKなど（認知症でも利用できる）P30の地域とのつながりの無回答の理由か何か（半数近くある）。</p>	<p>高齢者あんしん相談センターのミドル世代への認知度の向上は、区としても重要な課題と考えおります。今後は、ミドル世代向けイベント等での周知など様々な機会をとらえて積極的に認知度の向上に取り組んでまいります。</p> <p>免許証の返納率、更新辞退率の把握については、次回の実態調査の際に検討させていただきます。</p> <p>認知症サポート医の認知度の向上は、区の認知症施策の推進に当たっても重要なものと考えております。区民への周知はもとより、認知症サポート医と区の認知症施策との連携などについても検討してまいりたいと考えております。</p> <p>免許証を持っている人の免許証返納率等については、「運転している」、「免許は持っているが運転していない」、「免許を持っていたが返納した」、「免許の更新は行わなかった」の4つの回答の計を100とすることでお示した表から類推することができ、その結果、免許証を持っている人の内で免許証を返納した方は、27.6%となり、更新をしなかった方は、13.3%となります。</p> <p>・P30の地域とのつながりの無回答の理由については不明ですが、全体の質問数も多く、特に本質問については終盤であり且つ回答欄も多いことから、無回答が多くなったのではないかと推察されます。</p>
3	<p>(角田部会員)</p> <p>今までこのような調査の実態を知らなかった。これらの実態から取り組んでいけることが見つかるのでぜひ活用して地域の改善につなげたいと思った。次に出てくる結果を楽しみにしている。</p>	<p>—</p>
4	<p>(溝尾部会員)</p> <p>高齢者施策、介護保険事業の必要性は、地域によって異なると思う。文京区全体でなく、地区別に整理分別できますか？</p>	<p>本調査中区民を対象としたものは、富坂、大塚、本富士、駒込の4地区別に統計を取ることが可能であり、調査結果の本書では、必要に応じて4地区ごとの調査結果も記載する予定です。</p>

	意見・質問	回答
5	(足達部会員) 現在の体調は良いという方が多い中、健康や認知症が心配と回答されている方が多いため、今後も介護サービス事業等の充実や相談窓口の拡大が必要であると感じた。	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、今回の実態調査の結果などを踏まえて、引き続き介護保険サービスや相談窓口の充実に努めてまいります。
6	(飯塚部会員) 居宅介護支援事業所に勤務している者として、地域包括支援センターの認知度が低いことに驚きました。32ページの介護についてでも「相談体制や情報提供が充実している」を選択した方が多くいる。これらは地域包括支援センターが担うべき役割ではないのでしょうか。	高齢者あんしん相談センターの認知度の向上は、区としても重要な課題と考えおります。今後も様々な機会をとらえてセンターの周知に取り組むとともに、高齢者の総合相談窓口としての機能を十分に果たせるよう意を用いて運営してまいります。
7	(森岡部会員) サービス事業者・従事者へのアンケート結果をどう利用するのか、ただ単に研修会等を実施するだけでなく、文京区としての方針に基づいた具体的な対応を期待する。例えば、防災対策やハラスメント等。	サービス事業者・従事者へのアンケートのうち、従事者アンケートについては今回初めて行ったものであります。 本調査結果をもとに高齢者・介護保険事業計画（令和3～5年）を策定することになり、具体的な対応策については今後検討してまいります。
8	(中川部会員) 調査結果回答率から一般の人も関心を持ってきたと思われる、今後の予防や早期発見につながると思いました。従業員5人に満たない事業所に5人分の調査票を送付するのはいかがなものでしょうか？ 自宅で終末期を迎えることを希望する人が多いと思うが、自宅で終末期を迎えるために生活できる住宅をいかに整えるかの考えていく必要があると思う。	従業員が5人に満たない事業所へ5人分の調査書を送ったことに関しましては、今回の調査は、正規職員のみではなく、様々な立場の従事者から意見を得ようとしたことや、従業員数も変動することを考慮し、一律5人分の調査票を送ることといたしました。 実態調査でもミドルシニア、第1号・要支援認定者の約40%の方が終末期を自宅で迎えることを希望しているとの結果になっております。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、在宅サービスの充実や在宅医療と介護の連携の推進等の取組を推進してまいります。
9	(井関部会員) 介護従事者が受けるハラスメントについての調査は有難い。ほとんど報道されることはなく、外に出ないことで、逆の立場からの虐待ばかり取り上げられることが多く、有意義と思う。具体的な内容についても調べていただけるとなお良かったと感じる。	従事者調査については、今回初めて行ったことであり、多忙な従事者に回答を求めるうえで、質問の数や回答に要する労力も考慮いたしました。 そのうえで、ハラスメント問題は、センシティブな問題でもあり、具体的な記述を求めるのは、労力を要するだけでなく、本人の精神的負担もあると考え、控えさせていただいたところです。 しかしながら、具体的な事象を知ること、対応策もより具体的に思慮できると思われまますので、次回調査の課題とさせていただきますと思います。